

勉強会資料

「フェーズフリー」とは、防災の新しい考え方で、日常時（いつも）と非常時（もしも）という2つのフェーズ（時間・社会の状態）に関わらず、適切な生活の質を確保しようとする概念です。災害大国である日本での「防災にコストや手間をかけられない」という声に対して、身のまわりにあるモノやサービスが、ふだんはもちろん、いざという時にも役立ち身を守ることができるという新たな考え方です。

非常時にだけ使うものを非常用として備蓄するのが従来・・・ただ、平穏な日常を過ごしているうちに、非常時に備える意識はどうしても希薄になってしまう。日常では便利に使えて、非常時には役に立つもの。備えるというのは難しい面もあるが、普段使えるものが役立つなら、自然と備えていることになる。たとえば、

普段は段ボールだが、災害時にはベッドとして使用できる強化段ボールや、電気スタンドの電気の部分が取り外せて、災害時には懐中電灯として使用できるものが商品として登場するなど、新しい災害対応として注目されつつあります。

施設においては、法的な基準にそって、水・食料などの備蓄は用意されています。この点は家庭とちがって、備えなければいけないものは、備えてあるわけです。災害を想定したマニュアルも更新・配布され、対応の重要性を理解してはいる。ただ、実際の業務のなかで、非常時を意識することは少ないと思います。施設におけるフェーズフリーという視点から、各職員が災害対応について考えることで、理解を深めると同時に、実際の業務に活かせること

を考えてみましょう。

例：吸水パッド～ 普段は陰部洗浄の際の水分を吸収するものとして使われている。

→災害時（水がでない想定）：トイレやPトイレの便座下に敷いて、尿・便を吸収するものとして活用できる。

提案：2階の共有倉庫には在庫が数個しかないが、災害時使用を想定して、在庫を増やす（目安何個）と決めてはどうか。

このような感じで、3つ考えてみて下さい。ものだけでなく、業務内容でもかまいません。

フェーズフリーとはちがうかも知れないが、災害のとき、こうゆうところが不安で、こうしたらよいのでは、というのでも可。

そもそも〇〇が足りない、こういったものがあれば、といったことでもかまいません。

考えたこと等を記入して、 月 日までに に提出してください。

氏名 :